



【手法】

地域新電力

官民連携

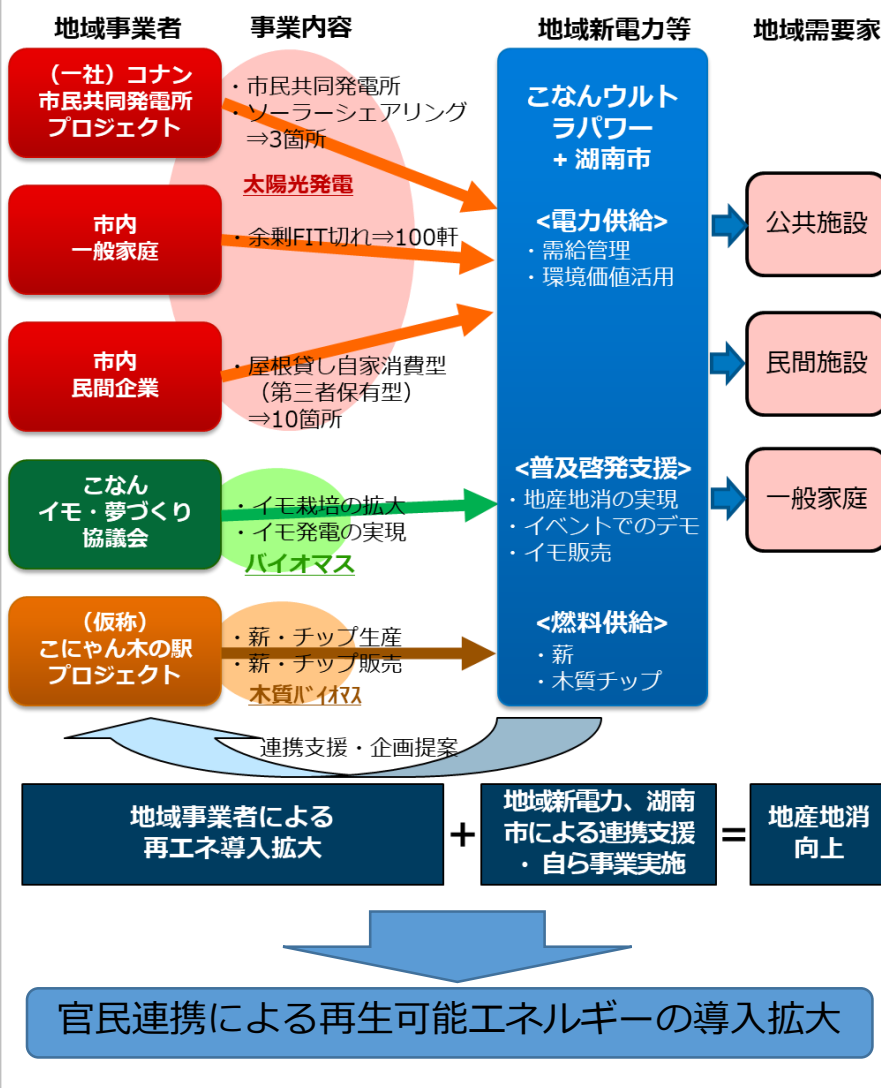
農林福連携

【目的】

再エネ拡大

普及啓発

1. 事業イメージ（目標年度：2030）



2. 事業概要

【目的】 地域における再エネを官民連携で導入拡大するビジネスモデルの構築

【手段】 地域新電力が地域事業者と連携・支援または自ら主体となり、再エネ導入

【特徴】 湖南省や地域新電力が、地域事業者（（一社）コナン市民共同発電所プロジェクト、こなんイモ・夢づくり協議会や障がい者作業所等含む）と連携し、再エネ導入の拡大を図ることで、持続的な低炭素都市づくりに貢献

3. 事業効果（目標年度：2030、基準年度：2018）

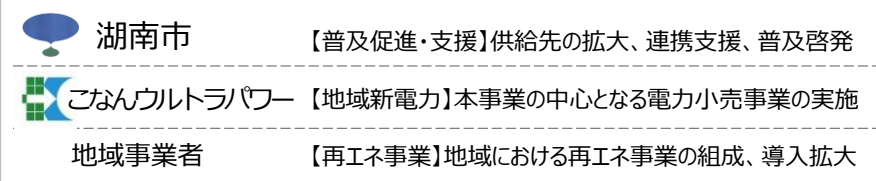
【二酸化炭素排出削減効果】 798 t-CO₂/年（約200世帯分の二酸化炭素排出量）

【再生可能エネルギーの利用量（電力）】 1,599,298kWh/年（約400世帯分の電力）

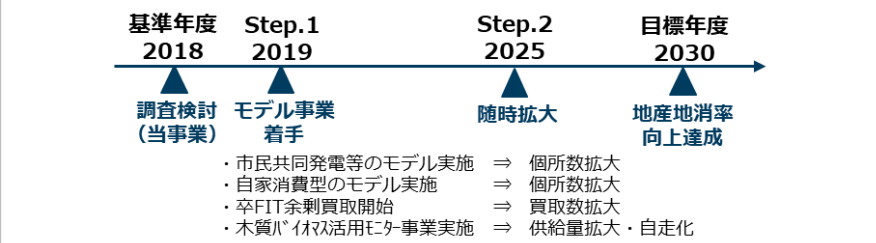
【地域経済付加価値】 7,396,642円/年

【地域課題の解決】 固定価格買取制度の太陽光の買取価格低下に伴い停滞していた再エネ導入拡大に寄与し、エネルギー面から地域経済循環を促進させるとともに、地域事業者が活躍する場を創出する。

4. 事業体制



5. 事業スケジュール





別紙

【手法】

地域新電力

官民連携

農林福連携

【目的】

再エネ拡大

普及啓発

①自治体の基礎情報

【規模】

人口：55,053人（平成31年1月1日時点）、世帯数：23,622世帯（平成31年1月1日時点）
歳入・歳出：211.1億円（平成30年度一般会計予算）、面積：70.40km²

【立地】

滋賀県南部に位置し、大阪・名古屋から100km圏内、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点にある。南端に阿星山系、北端に岩根山系を望み、地域の中央を野洲川が流れている。古くは東海道五十三次の51番目の宿場が置かれ、近年は工業団地が立地、京阪神のベッドタウンとなっている。一方、障がい福祉における先駆的な取り組みを行うなど「福祉のまち」として知られている。

自動車：大阪70分、京都45分、名古屋90分

鉄道：大阪70分、京都40分、名古屋90分

【産業構造】

湖南省を含む甲賀地域の経済活動別生産額構成比 ※湖南省を含む甲賀地域の生産額（実数）7,130億円（平成24年度）
製造業50.9%、建設業3.4%、卸売・小売業5.9%、金融・保険業1.4%、不動産業13.3%、運輸・通信業5.6%、サービス業11.3%、政府サービス生産者3.9%、その他4.3%

②各主体の参画理由

【湖南省】

湖南省、湖南省商工会や市内企業が共同で出資する「こなんウルトラパワー」を中心として、地域事業者と連携することで、さらなる再エネの導入拡大を図り、エネルギーの地産地消を促進させ、「湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン」に掲げる基本方針①エネルギー・経済の循環による地域活性化、②自立分散型のエネルギー確保、③地球温暖化防止への貢献を実現するため

【こなんウルトラパワー】

地域の再エネ拡大を連携・支援または自ら実施することで、電力の地産地消、CO₂排出量の削減、電力調達コスト（不足インバランス等）の削減を実現できるため

【地域事業者（（一社）コナン市民共同発電所プロジェクト、こなんイモ・夢づくり協議会や障がい者作業所等含む）】

地域事業者が事業主体となって再エネ導入を図り、地域経済循環を促進させることで、農林福連携など市内の課題解決に貢献するため